

災害FM、SNS、防災行政無線の違い

2025年3月3日

臨時災害放送局の開設・運用に関する実務者連絡会（第3回）
放送作家/一般社団法人オナガワエフエム 大嶋 智博

大嶋 智博(放送作家)

東京・大田区出身

1996年より民放・NHK問わず、様々なラジオ・テレビ番組の企画・構成・取材を担当。

▼NHKスペシャル、クローズアップ現代ほか

▼朝ドラ「おかえりモネ」監修



また放送局や企業のSNSアカウント運用のスーパーバイザーなども手がける。

▼2011年、東日本大震災による津波で、町の八割が壊滅した宮城県女川町に知人がいたことをきっかけに同町での臨時災害放送局開設を支援。避難所にいた被災した若者たちに一からラジオ放送のやり方、取材の仕方を指導し、臨時災害放送局「女川さいがいFM」(<http://onagawafm.jp>)を立ち上げる。

同局は被災した町民に必要な情報を提供するとともに、失われた町のコミュニティを繋ぐ存在として延長を重ね、臨時災害放送局としては異例の5年間の運用となった。またその模様がテレビドラマ化されるなど注目され、それをきっかけに全国から集まった寄付金ですべての運営費を賄った。(自治体による費用負担ゼロ)

閉局後の2016年に一般社団法人を立ち上げ、復興が進む女川町のPRを請け負うとともに、これまでの経験を生かして、被災地で臨時災害放送局が立ち上がる際に支援・サポートす活動をスタート。熊本地震、関東豪雨、北海道胆振東部地震で5局の開設を支援したほか、北海道と、能登半島では日本コミュニティ放送協会(JCBA)と連携し、実際の運営も行っている。

右の内容を特集した読売新聞の記事
(2011年5月29日27面)については、
著作権の観点から非掲載としております。



5年間にわたって放送を続けた女川さいがい
FMは、臨時災害放送局が地域の人々の役に
立った例として多くのメディアで取り上げて
いただきました。

特に復興期の2013年にNHKで放送された
ドラマ「ラジオ」は文化庁芸術祭大賞にお選ば
れ、6回も再放送されたほど。現在も一部が
下記リンクからご覧いただけます。



防災行政無線 ※初動に威力を発揮



・メリット

役所からのスイッチオンで町中の人々に一斉に情報を伝えられる
避難の呼びかけなど緊急時に役立つ

・デメリット

スピーカーが近くにならない場合や被災状況によっては聞き取りにくい
情報を伝える相手(対象)を選ぶことができない

SNS

※被災した地域内で住民に
情報伝達とコミュニケーションの
場を提供する



物資配布のお知らせ

在宅避難者で、上下水道が使用できない方を対象に、簡易トイレを配付いたします。

お住いの地域の配布場所で受け取りください。

[配布場所の確認はこちら](#)

・メリット

登録してもらった住民に対してプッシュ型で必要な情報が届けられる
情報量の多い内容でも図形や映像など交えてわかりやすく伝えられる

・デメリット

携帯ネット網や、電力インフラが被害を受けた場合は機能しない
(東日本大震災、能登半島地震でも一週間以上ダウンした地域多数)

臨時災害放送局

(FMラジオ放送)

※被災した地域内で住民に
情報伝達とコミュニケーションの
場を提供する



・メリット

市販のFMラジオで受信できるため、車、避難所、自宅、場所を選ばない

特定の対象に向けた内容、説明に時間のかかる内容も伝えられる

インターネット同時配信により、他地域に避難した住民にも届けられる

・デメリット

スイッチをONにしてもらわなければ聞いてもらえない

地形や送信所の場所によっては電波が届きにくい場合もある

災害発生時は、
情報が無いことが住民にとって一番の”不安”

どれかひとつ ではなく、
それぞれのメリット・デメリットを理解し、
情報を様々なチャンネルで届けることが”重要”

また住民が必要とする情報は、
地震・台風・津波・豪雨など災害の種類や、
地域の状況、また復旧の状況によって
どんどんニーズが変わっていく

臨時災害放送「局」はそうした情報を集約し、
発信する”ハブ”となり、
そうした”不安”を解消できる

スタート時に、役所、社会福祉協議会の担当者、
そして実際に放送を担当する住民ボランティアを一同に
集め、(被災から1か月近く経った避難所の現状を考えたうえで)

- どのような内容を放送すべきか？
- どのような情報のニーズがあるか？

しっかり話し合って内容と、
(情報を集めてくる)役割分担を決めました。



ベース

○国・自治体の情報 →役所内で集約

- ・罹災証明書など被災した方に必要な手続きについて
- ・物資配給などについて
- ・学校再開あるいは休止などについての連絡
- ・道路などの通行止め情報

○避難生活や復旧に必要な情報 →社会福祉協議会など

- ・給水・物資配給・炊き出しなど
- ・ボランティアの派遣(自宅が無事で助けが必要な場合)

○電気・ガス・水道・テレビ・電話などライフライン情報

- ・復旧のめどや現状

○警察・消防・(自衛隊)からの情報 →警察署・消防署など

- ・空き家になった自宅の防犯やデマなどの注意情報
- ・入浴をはじめとした各種支援活動の状況

オプション

○生活情報(民間の営業情報) →局で集約

・ガソリンスタンド・コンビニなどの営業再開情報

○公共交通機関の復旧・再開情報 →各鉄道・バス会社など

○医療機関情報 →医療機関・保健所など

・病院・医療機関・調剤薬局などの営業状況

○心のケアや法律相談などの情報 →弁護士会など外部団体

○天気予報やニュース →地方気象台及び地元新聞社から情報提供

○その他コンテンツ(読み聞かせ・朗読・落語など)

・子供や高齢者など避難所にいる人たちを楽しませるコンテンツ

(東日本大震災のときは小学館/文化放送/ニッポン放送などが無償提供)

○その他

自治体の首長からのメッセージ

→トップや各担当部署の責任者などが直接出演し、メッセージを発することで住民は行政を信頼し、安心感が増します。



女川さいがいFMでは、現在も町長を務める須田善明氏(写真右)が週一回30分のレギュラー番組を担当。町民からの質問やメッセージにも毎週真摯に答え、好評を得ました。

慰問にきた芸能人・著名人などからのメッセージ

→個別に巡回しきれない分、地域すべての被災者にエールを送ってもらうことが可能

など

免許を受けて放送を実施するのは自治体
聞いている人は地域の「住民」
子供からお年寄りまで地域には様々な人がいる。
もちろん障害者やマイノリティも・・

被災して緊張状態が続き、疲れている人、
イライラしている人も少なくない
そんなときだからこそ、
(できるだけ)やさしい「ことば・表現」を使うこと

情報に間違いがあってはいけないので、
放送にあたってはしっかりと確認して伝えること

それを実践するため、放送する内容を
女川さいがいFM(及びそれ以降に携わった局)では、
すべて話し言葉の原稿にする方法をとりました。

臨時災害放送局での情報の伝え方

(2025/02/21 17:02) 1 / 1

	日	月	火	水	木	金	土
朝							
昼							
夕							

原稿：こころのケアセンター奥能登 開設のお知らせ

(2025 年 3 月 10 日まで)

2 月 22 日 12:00～

文責：大嶋

(続いて) 石川こころのケアセンター奥能登 開設のお知らせです。

地震や豪雨災害で被災し、今までと生活環境が変わったことで
ストレスや悩みを抱えている方のために、
石川県では、2 月 25 日、25 日火曜日から
新たに「石川こころのケアセンター奥能登」を開設します。

復旧・復興支援のため石川県で活動する方々とともに、
皆様の相談を受け、こころの回復をお手伝いさせていただきます。

場所は、輪島市^{たくだまち}宅田町48-1 ワイプラザB棟(ゆっくり)

開設時間は、祝日や年末年始をのぞく

月曜日から金曜日の朝 10 時 から 夕方 4 時 (x2)

こころのケアに関する「つどい」などが開かれるほか、
医師や心理師による相談もお受けします。

また様々な事情で施設まで来られない方のために、
被災者相談ダイヤル を通じて、電話による相談も受け付けます。

被災者相談ダイヤルの電話番号は

0120-333-247 (x2)

受付時間は 月曜日から金曜日の 朝 9 時 から 夕方 5 時 までです。

どうぞお気軽にご利用ください。

以上、石川こころのケアセンター奥能登 開設のお知らせでした。

←古い原稿を間違えて何度も読まないように、いつ作成して、いつまで(繰り返し)伝えてよい情報なのかを記入する欄

←誰を対象にしたどんなお知らせなのか?を最初に明確に強調して伝えることによって、聞き流されないように工夫します。

←ラジオはながら聞きのメディア、大事なポイントを聞き漏らされないように、時間や問い合わせ先などをはじめとした「一番大事な」ポイントは、繰り返し2回・ゆっくりハッキリ喋って伝えてもらうように指導しています。

臨時災害放送局「災害FM」は、
防災無線と違って難しそうとか、手間がかかる・・・と
考える方も多いかもしれません。

しかしこれまで4回、被災地で実際に災害FMの運用に
携わった立場から申し上げたいのは・・・

一方通行な防災無線や
チラシといった「お役所」的な発信ではなく、
被災して大変なときだからこそ、

人の「声」で伝える「ラジオ」のメリットは大きいのです。

防災無線の延長とか、代替としてではなく、
それも含んで、もっと広く使えるツールとして
捉えていただければと思います。

私ども、一般社団法人オナガワエフエムでは、
これまで3度、臨時災害放送局の実際の運営経験を持ち、
皆様方のお手伝いをさせていただいています。

前頁の放送用の原稿作成についても20名のボランティアメンバー(本職は新聞記者、フリーライターなど)を抱え、その作成を支援するチームを持っており、能登での開局時も地元のマンパワーで回せない部分はリモートでそれらを代行する予定です。

また平時含めて、地元の一般住民に一から機材の扱い方から原稿の作り方、読み方、放送にあたって注意しなければならないことなどを含めた人材の育成も行っています。これらは原則的に無料でお手伝いさせていただいていますので、臨時災害放送局をどのように運用していいかわからないという方はどうぞお気軽にお問い合わせください。

また**日本コミュニティ放送協会(JCBA)**さんをはじめ、他にも各地域でも協力をしてもらえる団体があります。

自分達だけで運用するのではなく、

いざという時のために、
今から”つながり”を作りましょう

(CASE)大船渡市での山林火災における現状

現在も鎮火せず、進行中の岩手県大船渡市で発生した「山火事」

現地では防災行政無線やマスコミを通じての情報発信に加え、地元のコミュニティFM「FMねまらいん」(東日本大震災時に開設された「おおふなと災害FM」が前身)が30分に一回ずつ、情報をアップデートして放送中

また放送した内容をXなどのSNSでも発信するほか、スマホアプリからも放送を聞くことができるので、大船渡市民だけでなく、家族や親戚がいる遠隔地の人にも現地の状況・声をリアルタイムで届けている。



FMねまらいん

@FMnemaline875 · 3月1日



避難指示】⚠️ 赤崎町合足地内の林野火災は延焼拡大中です。新たに甫嶺東・甫嶺西・上甫嶺の各地域に避難指示が発令されました。避難所は、越喜来小学校体育館です。直ちに避難してください。#大船渡市赤崎町林野火災 #FMねまらいん

💬 ❤️ 69

